JISA 西日本地区会 開催報告

令和 8 年 11 月 4 日（水）、第一セントラルビル 2 号館会議室（岡山市）において令和 8 年度西日本地区会が開催された。参加者は計 37 名であった。



JISA 西日本地区会
代表幹事 佐藤 俊治氏

第一部の冒頭、西日本地区会代表幹事（OEC 株式会社 代表取締役社長）佐藤 俊治氏が、開会挨拶として、世界や業界を取り巻く様々な環境変化に触れ、当業界として、PHP の脆弱性への対策を含め、安全で安心なシステムを提供することの重要性を強調した後、岡山県での地区会開催に当たり、一般社団法人システムエンジニアリング岡山の活動紹介をプログラムに盛り込んだ趣旨や懇親会の会場とした岡山城の歴史を紹介した。



JISA 副会長
((株)ID ホールディングス
代表取締役社長)
船越 真樹氏

また、JISA 副会長（株式会社 ID ホールディングス　代表取締役社長）の船越 真樹氏が、日頃の JISA 活動へのご協力や地区会参加への謝意を述べた。



JISA 副会長・
専務理事
髙橋 淳氏

続いて、JISA 副会長兼専務理事の髙橋 淳氏が、「近時の政権の重要課題と我が国企業のデジタル化の現在地」と題する講演を行った。

本年 7 月の「骨太の方針」で整理を行うと、地方創生施策を重視するスタンスは継続しつつ、外交・安全保障政策の比重が著増、DX・デジタルは減っている。他方、戦略 17 分野の「官民ロードマップ」に示された概ね 2040 年までを念頭に置いた官民投資額で見ると、デジタル関連分野が圧倒的なウェイトを占めると分析した。高市総理の所信表明演説（本年 10 月 5 日）では、AX の社会実装を大胆に進めると述べており、中小企業庁で実施している「中小企業 AX 実装ネットワーク事業」を実装する当業界として、同事業を有意義なものにしていく必要があると強調した。

続いて、統計情報をもとに、日本企業の DX 化の停滞状況について指摘するとともに、「日本企業の AI 導入は業務効率化に留まる傾向があり、新たな価値創造や顧客満足度向上への活用が課題となっている。」と述べた。

近時のサイバーセキュリティ施策については、昨年 5 月に成立した「サイバー対処能力強化法」及び「同整備法」の段階的な施行状況と特徴を紹介した上で、自由民主党国家サイバーセキュリティ戦略本部が政府に宛てて本年 10 月に提出した「サイバーセキュリティ対策の抜本的強化に関する提言」のうち、当業界に関わる点を挙げ、

今後の政府の動向に注視が必要と周知した。

最後に、政府の動向と連動し、取引適正化を推進する必要性を述べ、講演を締めくくった。



SEO 専務理事
楠戸 國正 氏

第二部では、一般社団法人システムエンジニアリング岡山(SEO)専務理事　楠戸 國正氏が、SEO の活動を紹介し、JISA と SEO の連携について意見交換を行った。

SEO は、1984 年、33 社の異業種交流からスタートし、2025 年の会員数は 94 社に拡大。異業種交流を基盤とし、情報サービス産業に留まらず、異なる業種と地域の関係者（企業、大学、行政）を繋ぎ、セミナーや交流会等のイベント開催や会員企業が共通して抱える諸課題の解決に向けた取組に注力している。

JISA との連携で得た機会を地域活動に展開する上で、JISA の紹介により、深圳視察を実施できたこと、JISA の「地域高度化事業」を活用して岡山情報化セミナーを実施していることなどを紹介した。

意見交換では、地域の情報サービス産業協会から参加された方々等から活発な意見や感想が寄せられた。



意見交換の様子

第三部の懇親会は、豊臣秀吉五大老の一人「宇喜多秀家」の居城であった岡山城へ移動して行われた。乾杯のご発声では、JISA 会長の福永哲弥氏が、「不正アクセスへの対応は当業界の根幹に関わる重要な課題です。大変厳しい時代ですが、皆さん一緒になって戦い抜きましょう。」と述べ、歓談し、盛会のうち閉会した。



岡山城



乾杯のご発声
JISA 会長　福永 哲弥氏



懇親会の様子

（JISA 茂木）